



自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔1〕特色ある学校づくりの推進	①富岡東としてのオンリーワン教育の実現  ②自立をめざす視点、共生をめざす視点、個性を重視する視点からの生徒の育成  ③伝統の継承と新たなアイデンティティの構築	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>他に類を見ない本校独自の特色ある学校づくりをする。</li> <li>生徒一人ひとりを総合的に理解し、その能力と個性を最大限に活かし伸ばす教育を推進する。</li> <li>社会人として自立心や責任感をもち、仲間と協力し共生できる生徒を育てる。</li> <li>すべての教育活動の充実と深化を図り、伝統を重んじる校風を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富岡東中学校卒業生を迎えて2年目になるが、県南の雄の名を轟かすように勉学や部活動、学校行事を熱心に行っている。</li> <li>ホームページのアクセス数は、678,595（昨年 565,053）件であり、昨年より約11万件も増えている。昨年度は13万件増加。年々増加の傾向にある。学校への関心の高さを表している。</li> </ul>	（評定）  <b>A'</b>  （所見） ・地域や保護者からは、県南の雄として、好感をもって迎えられている。  ・進学や就職、部活動等においても目標に近い数値を達成できている。	
		活動計画	活動計画による実施状況	各組織自己評価	
		《全校レベル》 ・中学校、高校、全日制、定時制、商業科、普通科、看護科など多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりをする。	《全校レベル》 ・各課程・各学科それぞれが多様な課程や学科の特性を生かした特色ある学校づくりを工夫して実践した。	[特別活動課・生徒指導課] A ・生徒会長を中心に生徒会の自主的な活動により、富東祭・予餞会などの学校行事を推進できた。  B ・積極的な挨拶ができない生徒が増えてきた。	
《下位組織レベル》 [特別活動課・生徒指導課] ・各種学校行事を充実し、良き伝統が先輩から後輩へ引き継がれるよう、生徒会を中心に活動させる。 ・制服を美しく自然と着こなす、さわやかな挨拶、奉仕精神など、本校の伝統的美質を伝える指導をする。	《下位組織レベル》 [特別活動課・生徒指導課] ・富東祭（文化祭・体育祭）、予餞会など生徒会の自主的な活動により、多くの学校行事が充実し、良き伝統が先輩から後輩へと受け継がれている。  ・遅刻者数の減少、挨拶の励行、服装・頭髪に対する意識の高揚の3点を重点目標として生徒指導にあたった。	[教務課・進路指導課] A ・「きめ細かな進路指導が行われている」という保護者は75%（昨年は78%）「学校行事は適切なものである」という保護者は92%（昨年は92%）で良い評価をいただいているが、学校行事について、さらにより良くなるように行事の精選を行いたい。			
[教務課・進路指導課] ・総合的な学習の時間を中心に自らの個性を見つめ、自分の進路や人生を切り拓く視点を持たせる。 ・教職員の意見を尊重し、各行事をよりよい方向へ進めていく。 ・現行の良さを残しつつできる限り多くの新しい意見を取り入れ、より良い教育環境を目指す。	[教務課・進路指導課] ・各先生方の意見が尊重されて、各行事が行われていた。 ・昨年度に引き続き、中学生体験入学時などには学校紹介のプレゼンテーションの中に、生徒へのインタビューを動画で入れ、生の声が届けられるよう細かいところを改良できた。				

世界に輝く人をつくっていただきたい。

要求されるところが大きい  
が引き続きよい評価になる  
ように努力してほしい。

バランスのとれた柱のしっ  
かりした富岡東高等学校を  
考えて行ってほしい。

普通科と商業科がそれぞ  
れのよさを見習いつつ、  
「富東次の百年」への一  
歩を進めていく。

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見			
〔2〕多様なニーズと地域の信頼に応え、地域と共生する学校づくりの推進	①学校評価制度の活用と学校の活性化 ②教師と生徒，生徒相互そして教師相互の温かい人間関係の構築 ③ボランティア活動の推進	<p>評価指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校評議員会及び学校評価に関する会議を開催し，意見を聞く機会を設ける。</li> <li>・ホームページを定期更新（月2回以上）する。</li> <li>・『ひがし倶楽部』を年3回発刊し，小中学校等に配布する。</li> <li>・PTA総会の参加保護者50%以上をめざす。</li> <li>・大学視察等，PTA研修会を実施する。</li> </ul>	<p>評価指標による達成度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページの更新は，部活動等の新聞掲載記録を中心に更新した。</li> <li>・『ひがし倶楽部』を年間3回発刊し，中学校での高校説明会の時などに配布し，各中学校へ広報した。</li> <li>・PTA総会の保護者参加は率50.5%と昨年度より0.8%下がる。</li> <li>・大学（京都大学・立命館大学）見学や研修会を行った。京都大学では卒業生に大学の説明と案内をしてもらった。</li> </ul>	<p>総合評価</p> <p>（評定）</p> <p><b>A'</b></p> <p>（所見）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校体験入学に参加して「とても良かった」が約65%であり，3年続いて伸びている。（61%→64%→65%）</li> <li>・教職員が「熱心に授業に取り組んでいる」「授業に様々な工夫をしている」と答えた生徒はそれぞれ約82.2%と約78.3%であった。（昨年度は90%，86%）これからも授業の工夫の面においてより一層努力していきたい。</li> <li>・「学校行事は適切で楽しいものである」と答えた生徒は78%（昨年度は86%）であった。見直しを常に行い，充実した学校行事を実施できるよう努力していきたい。</li> </ul>	<p>評価のための評価にならないように，毎年改善を行い，視点を変えることによって次年度に生かすようにするのがよい。</p> <p>評価指標の数値を明確化した上での評価にしてほしい。中間評価を設けてはどうか。</p> <p>地域へ出かけてのボランティアは生徒にとっていい経験になっている。</p> <p>ボランティア活動は年間通して様々なところから着手している。これからも社会や町の人たちに役立つことを考えて参加を考えていきたい。</p> <p>コミュニケーション能力や社会性がボランティア活動を通して養われていくことを考え，生徒へ意義を伝え勧めるように考えたい。</p> <p>教員と生徒とのいい関係を築き，人材育成を行っている必要がある。学力はあるが，やる気や気力の欠けた生徒にならないように，地域にでかけコミュニケーション能力を養っていくのは大事なことである。</p>	<p>評価表を毎年見直し，よりよい学校づくりを目指し続ける。</p> <p>ボランティア活動は年間通して様々なところから着手している。これからも社会や町の人たちに役立つことを考えて参加を考えていきたい。</p> <p>コミュニケーション能力や社会性がボランティア活動を通して養われていくことを考え，生徒へ意義を伝え勧めるように考えたい。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>《全校レベル》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育力を活用するため学校運営について，有識者から意見を聞き，学校運営に反映する。</li> </ul>	<p>活動計画による実施状況</p> <p>《全校レベル》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校評議員会及び学校評価に関する会議」を開催し，関係者から意見を聞き，学校運営の参考にした。</li> </ul>				<p>各下位組織自己評価</p> <p>[特別活動課・体育科・教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会長を中心に生徒会役員等がボランティア活動で地域社会との交流を積極的に推進した。</li> <li>・部活動の応援をとおして協力体制やコミュニケーション能力を育み，「文武両道」を推進することができた。</li> <li>・HPの更新が少々滞りがちだった。</li> </ul>
		<p>《下位組織レベル》</p> <p>[特別活動課・体育科・教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員等を中心に地域のさまざまなボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。</li> <li>・高校総体時には応援バスを出し，学校あげての応援態勢をくむなど「文武両道」を実践する。</li> <li>・ホームページ上で部活動の活躍や進路実績等の情報を積極的に提供する。</li> <li>・学校の活動を広く地域住民に広報する。</li> <li>・公開授業の実施。</li> </ul>	<p>《下位組織レベル》</p> <p>[特別活動課・体育科・教務課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会役員を中心として，阿南市の老人体育大会・成人式などの機会にボランティアとして参加し，地域社会との交流を深めることができた。</li> <li>・総体や選抜大会の決勝など応援バスを出し，全校あげた協力体制で「文武両道」を推進することができた。</li> <li>・公開授業は10月26日（日）に実施した。</li> </ul>				<p>A'</p>
		<p>[総務課・各学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総会の行事内容を保護者のニーズにあったものになるように工夫し，総会欠席保護者には，総会資料の配付や三者面談時に総会内容に触れる。</li> <li>・PTA総会後に保護者と学級懇談会または個人懇談の機会を</li> </ul>	<p>[総務課・各学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA総会の午後，各ホームルームで学級懇談会または保護者との面談を実施した。</li> <li>・夏季休業中にも三者面談を実施し，ホームルーム経営や進路指導への理解を深めてもらい，協力体制が築けるよう配慮した。</li> </ul>				<p>A</p> <p>[総務課・各学年]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・限られた時間内ではあるが，有意義な面談となった。</li> <li>・担任と保護者との相互理解が深まった。</li> </ul>

		<p>設け、学年やクラスの方針、行事等について相互理解を深め、家庭学校間のサポート体制を築く。</p> <p>・保護者との情報交換を行う。</p> <p>[各学年・各教科・教務課・進路指導課]</p> <p>・中学生体験入学、公開授業の各参加者400人超をめざす。</p> <p>・各学年の「保護者対象進路説明会」を実施する。</p>	<p>・総会欠席者には総会資料を配付した。</p> <p>・PTA総会の際、進路講演会を実施し、ニーズに合った有益な情報を提供できた。</p> <p>参加者512名(参加率50/5%)</p> <p>[各学年・各教科・教務課・進路指導課]</p> <p>・中学生体験入学は8月20日(水)に、公開授業は10月26日(日)に実施した。</p> <p>・中学生体験入学の参加者は359名公開授業は500人をこえている。</p> <p>・中学生体験入学では、中学生に合った内容で、高校の学習内容に興味関心を持てるような授業展開を工夫した。</p> <p>・各教科で工夫して中学生にも興味を持てる体験授業を計画・実施した。</p> <p>・保護者対象の進路説明会を実施し、学年の現状や課題、今後の進路の展望、入試制度の変更についての情報提供と相互理解を行った。(分科会は商業科・普通科に分かれて実施した。)</p> <p>(1年84名 2年92名 3年115名)</p>	<p>[各学年・各教科・教務課・進路指導課]</p> <p>A'</p> <p>・各教科とも、さらに工夫を重ねたい。</p> <p>・就職や入試情報についての理解が深まり、生徒の学力向上に向けての保護者の役割について理解が得られた。</p> <p>・中学生体験入学は359人、公開授業は578人であった。</p> <p>・大いに興味・関心を持ってもらえたと思う。</p>		<p>多数の人々に学校の実情を見ていただけるよう、企画や広報の方法を工夫していきたい。</p>
--	--	---	---	---	--	---

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔3〕生徒の自主性を育成し、基礎学力の定着と学力向上への取組の強化	①生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成 ②指導内容の精選と指導方法の工夫改善 ③自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	<p>中学では、夏休みの課題が多く、取り返す期間がない。</p> <p>英数国重視に加えて、理科も難しい。</p> <p>中学は着実に力を発揮している。</p> <p>中高一貫教育については、学校内外からの関心が非常に高い。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習に対する意欲や達成感の向上→70%以上</li> <li>・一週間の総家庭学習時間（考査前～考査中7日間）→一人平均30時間以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学習に対する意欲や達成度の向上」は68.9%があてはまると回答。「教・職員は、生徒の家庭学習の習慣づけのために、課題を出す等努力している」は生徒の82.3%があてはまると回答。（6%向上）</li> <li>・1学期平均27.2時間2学期には平均31.6時間となり目標値達成した。</li> </ul>	（評定） <b>A</b>	
		活動計画	活動計画による実施状況	（所見） ・生徒の授業への満足度は約80%であった。（昨年度約84%） ・高い水準の授業づくりを推進しており、目標が高いが、総合評価は、1教科を除いて全ての教科で90%を超える評価だった。	
		《全校レベル》	《全校レベル》	各下位組織自己評価	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力向上検討委員会」において生徒の学力向上を図る授業の展開を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学力向上検討委員会」や職員会等で、生徒の学力向上を図る授業の展開をお願いした。</li> </ul>	<p>[学力向上検討委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価アンケート等では、概ね良好な結果であった。</li> </ul>	
		《下位組織レベル》	《下位組織レベル》		
<p>[学力向上検討委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修や授業評価アンケート等を実施する。</li> </ul>	<p>[学力向上検討委員会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業・公開授業による教員研修や授業評価アンケート等を実施した。</li> </ul>	<p>[各教科会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定目標に基づく授業展開ができ、基礎的な学力の定着を目指せた。</li> <li>・苦手な生徒には進度がやや早めになっているようだ。</li> </ul>			
<p>[各教科会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科（科目）ごとに設定した研究テーマに基づく授業を実践し、さらに相互評価をとおして、よりよい授業の指導方法を研究する。</li> </ul>	<p>[各教科会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科目ごとに目標を設定し、それに基づく授業実践を行った。</li> <li>・小テスト等において各生徒の理解度を把握し、個々の生徒の状況に応じた指導を工夫した。</li> </ul>	<p>[各教科会]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テストにおいては全員が基礎的な技術を獲得した。</li> <li>・課題の提出率は82.3%。学習が追いつかない者もいる。</li> <li>・各学年で必要かつ重要な基本的学習習慣が身についた。</li> <li>・各担任はそれぞれ工夫して生徒の実態把握に努め、生活記録も毎日チェックし、コメント記入をまめに行っている。</li> </ul>			
<p>[各学年会・各教科会・進路指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活記録や生活実態調査を通して、各クラスの生徒の状況を把握し、基本的学習習慣の確立、特に学習時間の確保ができるよう助言する。</li> <li>・教科担任は課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習の習慣が定着するように努める。</li> </ul>	<p>[各学年会・各教科会・進路指導課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業内で必要に応じて個別に実技指導を行った。</li> <li>・確認テストや課題提出を定期的実施し、生徒一人ひとりの学習内容理解の把握を行った。</li> <li>・1学期と比較すると学習時間は確実に伸びている。</li> <li>・ホームルーム担任は生活記録や面談をとおして各生徒の実態を把握し、個々に応じた指導助言を行った。</li> <li>・富東タイムを利用して、自学自習する習慣が身に付くよう促した。</li> </ul>	<p>[各学年会・各教科会・進路指導課]</p>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔4〕中高一貫教育の円滑な実施	① 中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成 ② ホームページのさらなる充実 ③ 開かれた学校づくりの推進 ④ 心のふれあう校風の樹立	<b>評価指標</b> ・中学生と高校生の学校行事、生徒会活動、部活動等における交流充実を図る。 ・中高教職員による教科会を実施を目指す。 ・中高教職員による授業交流や進路研究会を行う。 ・中高一貫教育を生かした教育課程の編成と教育内容の創造。	<b>評価指標による達成度</b> ・学校行事等において可能な限り合同で行った。 ・英語・数学・体育で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業をとおして高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握し今後の課題を模索している。 ・中学高校で相互参観授業を行い、お互いの立場から協議や研究をした。	<b>総合評価</b> （評定） <b>A</b>	中学から高校への連携を密にして、学習意欲を高めていってほしい。  中学はどこに課題があり、どうすればよいかを考慮して、重点化した取り組みをするのがよいのでは。	中高合同の学校行事等により、お互いの交流がより深まるように取り組む。  時間がとりにくい中ではあるが、中高の連絡会の定例化や学校行事・生徒指導面での連携を図っていく。  中学と高校の一貫教育に対する意識が少しずつより合わさってきているが、会議や授業の連携などを継続することで中学から高校への意義あるスムーズな連携が可能になるよう図っていく。
		<b>活動計画</b> 《全校レベル》 ・中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。	<b>活動計画による実施状況</b> 《全校レベル》 ・相互授業参観を学期に一度以上行い、中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行った。また、教育委員会の時にも相互に研究協議を行った。	（所見） ・中高生の相互交流による連帯感が生まれている。今後は、新たな付加価値を模索し、中高一貫教育校としてのメリットを生かせるさらに進んだ教育を実践したい。		
		《下位組織レベル》 [教務課・進路指導課] ・教科（科目）ごとに教育課程を検討し、編成する。 ・各科目ごとに年間指導計画を作成する。 ・面接をとおして、将来の進路希望等を考えさせ、自発的活動を促す。	《下位組織レベル》 [教務課・進路指導課] ・各教科の教師の意見を反映させた教育課程を作成することができた。 ・各教科ごとに年間指導計画を作成している。 ・個別面接を多く実施し、将来のことを考えさせるとともに、生徒の自発的活動を促した。	<b>各下位組織自己評価</b> [教務課・進路指導課] A ・教育課程検討委員会では全ての教科の協力体制ができ、満足のいくものができた。 ・各教科の指導計画も検討を重ね、良いものができた。 ・面接を多く実施し、生徒の進路に対する意識の向上ができた。		
		[特別活動課] ・富東祭（文化祭・体育祭）を中高合同で開催する。 ・部活動で中高合同の練習を行う。	[特別活動課] ・富東祭（文化祭・体育祭）で中学校高校とも協同する形で開催することができた。	[特別活動課] A ・中高一貫教育体制が確立してきたが、さらなる工夫が必要である。 ・部活動の活動場所、中学と高校の連携について、さらに配慮が必要である。		

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔5〕特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	①挨拶，マナー等の基本的生活習慣の確立と定着	<b>評価指標</b> ・生徒指導方針に賛成である → 90%以上 ・遅刻をしない → 90%以上 ・身だしなみをきちんとしている → 90%以上 ・豊かな人間性を育むために学校行事を積極的に計画する。 学校行事への満足度→ 80%以上 ・部活動の加入率 → 100%をめざす ・四国大会，全国大会出場部数の増をめざす。 ・文化部のコンクール等参加を促進する。	<b>評価指標による達成度</b> ・生徒指導方針に賛成である 72% → 66.6% ・遅刻をしない 93% → 91.2% ・身だしなみをきちんとしている 95% → 93.2% ・学校行事への満足度 85% → 78.1% ・部活動加入率 110% → 109% ・女子バスケット，男子弓道，女子剣道が全国大会へ出場を果たす。	<b>総合評価</b> （評定） <b>A'</b> （所見） ・基本的な生活習慣（服装・頭髪等）は，大多数の生徒ができています。限定された一部の生徒が寝坊などの理由で遅刻する。 ・部活動は，「文武両道」をモットーに「さわやかで活力あふれる富東」精神の高揚や学校活性化に役立っている。	中学では，朝食を摂っている割合が94%となっているのは非常によい。 遅刻無しが91.2%や制服を美しく着用している93.2%はすばらしい。 挨拶が以前より悪くなってきているのでは。 環境への取り組みを一段と高めてほしい。 一昨年防災クラブが表彰されているのがよかった。
		<b>活動計画</b> 《全校レベル》 ・生徒指導課が中心となって全教職員間で共通理解を図り，望ましい生活習慣の育成に努める。	<b>活動計画による実施状況</b> 《全校レベル》 ・学期ごとにあいさつ運動や昇降口指導をとおして，教職員間で共通した指導ができた。		
	《下位組織レベル》 [学年会，生徒指導課，各教科会] ・挨拶の励行や清掃活動への自主的かつ主体的な取組を促す。 ・HR担任と教科担任は，始業のチャイムを教室で聞く。多遅刻者の指導については，保護者への連絡を密にする。	《下位組織レベル》 [学年会，生徒指導課，各教科会] ・昇降口指導において，挨拶など基本的な生活習慣の確立と服装・頭髪についての指導を行った。 ・朝の富東タイムまでに登校するように指導することで，遅刻者はほとんどいない。 ・挨拶や5分前行動ができるよう学年全体で指導した。	各下位組織自己評価 [学年会，生徒指導課，各教科会] ・各学年とも遅刻者はほとんどいない。 ・これからも粘り強い指導が必要であるが，大多数の生徒はできているようだ。		
	[生徒指導課] ・ホームルーム活動，全校・学年別集会をとおして服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。 ・交通マナー，事故防止についての指導を行う。	[生徒指導課] ・身だしなみ 約93.2%（昨年95%） ・遅刻をしない 約91.2%（昨年93%） ・自転車利用生のマナーについて指導の徹底を行った。	[生徒指導課] ・命の大切さとともに，自転車は加害者ともなり賠償責任が生じることなども指導していく。自転車マナーの苦情をいただくこともあり，その都度指導しているが生徒の意識改革までは至らなかった。		

服装や身だしなみといった基本的な生活習慣は必ずできるように繰り返し指導する。

地震津波等，防災教育の啓発や避難訓練を行い防災意識を高める指導をする。

生徒の自転車のマナーアップについて，意識改革ができるよう継続的な指導を行っていく。

		<p>[特別活動課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動紹介や部登録の時間を設定し，入部を促す。入部率1・2年においては100%をめざす。</li> </ul>	<p>[特別活動課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学後すぐ，部活動登録や部登録の時間を設定した。複数入部も可能なので入部率各学年で100%以上を達成できた。</li> </ul>	<p>た。</p> <p>[特別活動課]</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生は原則全員入部としているが，複数入部を可能としているので，2・3年生においても入部率100%以上を達成できた。 (1年112% 2年104% 3年112%)</li> </ul>		<p>ゴミ分別は環境保全の当然のこととして取り組むようにしていく。</p>
		<p>[環境・保健厚生課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震や津波に対する備えや対策について学び，自らの命を自分で守る事の大切さを理解させる。</li> <li>・毎日の清掃活動を，「5分前」にとりかかる姿勢を身につけ，校内環境美化に積極的に取り組む。</li> <li>・資源ゴミの分別収集を徹底し，ゴミ削減に取り組む。</li> <li>・食育を推進し，心身共に健康な生徒を育てる。</li> </ul>	<p>[環境・保健厚生課]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練をとおして，津波発生時の避難経路や場所の確認を行い備えを徹底した。</li> <li>・各学年の環境整備委員が各学期を分担し，全校放送による5分前行動を呼びかけた。</li> <li>・ゴミ置き場清掃当番が技師の指導の下，毎日徹底した分別を行った。</li> <li>・食育推進委員会を開き情報交換を行った。</li> </ul>	<p>[環境・保健厚生課]</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミの分別の徹底はできるようになったが，校舎内の清掃の取りかかりが遅かったり，手抜きが見られたので，今後徹底する。</li> <li>・校内美化に関する行事を少し増やしたい。</li> </ul>		



自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔6〕人権教育を基盤とした、生徒の個性や可能性を磨き、伸ばす教育の推進	①教育活動全体を通じた人権教育の推進 ②温かい人間関係にまつまれた学級づくりの推進と生徒理解の深化	評価指標	評価指標による達成度	総合評価  (評定)  <b>A'</b>	人権を尊重することを基本において指導することを職員に徹底させていきたい。  命を大切にすることの重要性をどの分野からも言及できるように指導を続けていきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>『富東人権新聞』の発行回数7回以上/年</li> <li>生徒対象の人権教育映画会等の実施</li> <li>人権問題教職員研修会を年3回実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『富東人権新聞』は7回発行した。</li> <li>人権啓発講演会を中・高生、保護者、教職員を対象に実施。(10月24日)</li> <li>人権問題教職員研修を3回実施。</li> </ul>		
	③自他の尊厳が重視される教育環境の構築 ④生徒の自主的な活動の推進 ⑤学校・家庭・地域・関係機関との連携の緊密化と協力体制の構築 ⑥人権問題の解決のために主体的に取り組む実践力の育成	活動計画	活動計画による実施状況	(所見)	
		《全校レベル》	《全校レベル》	・PTA地区別研修会や『富東人権新聞』,人権教育ホームルーム活動等を充実させ,学校をあげてこれからも人権意識の向上を図っていく。	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>人権意識の高揚を図り,同和問題をはじめ様々な人権問題解決の意欲と実践力をもった生徒を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識の理解と実践に意識の乖離がみられる。人権意識高揚の徹底が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解はある程度できるが,それが他の人権課題や普遍的な人権に結びついていない。</li> </ul>	
		《下位組織レベル》	《下位組織レベル》	各下位組織自己評価	
[人権教育課]	[人権教育課]	[人権教育課]	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人権を尊重するためのさまざまな取り組みが行われている」と答えた生徒は85%だった。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育ホームルーム活動を充実させ,各クラスの状況に合わせて資料等を探し,展開等の工夫をする。</li> <li>富東祭において「人権問題啓発ポスター展示」等を行う。</li> <li>月1回の「富東人権の日」に『富東人権新聞』を使って啓発する。</li> <li>『富東人権新聞』を家庭に持ち帰り,保護者にも読んでもらい人権意識の高揚を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権教育ホームルーム活動→1・2年生は回,3年生は5回実施。</li> <li>富東祭において人権問題啓発ポスターの展示,ホープサークル部の活動報告展示,人権週間(1月)にポスター・標語・書道作品の展示を実施。</li> <li>『富東人権新聞』を7回発行し,さまざまな人権課題を取り扱った。</li> <li>ホームルーム担任やPTA地区別研修会をとおして『富東人権新聞』を使って,家庭で人権問題について話し合いを実施していただくよう呼びかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解はある程度できるが,それが他の人権課題や普遍的な人権に結びついていない。</li> </ul>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見			
〔7〕個々の生徒の進路希望の実現	①進路相談の充実と進路実現への取組の強化 ②教育的支援が必要な生徒に対する個別カウンセリングの重視 ③生徒個々の状況を把握することにより進路実現に向けた支援の充実	<b>評価指標</b> ・生徒の進路について検討会を行う。 ・難関大や医学系の合格20名 以上をめざす。 ・インターンシップを体験させて、自分にあった職業を選択する契機とし、就職内定率100%をめざす。 ・商業科では、全商1級3科目以上取得者40%以上をめざす。 ・教育相談会議を開き、生徒理解に努め、生徒の進路実現と自己実現を支援する。	<b>評価指標による達成度</b> ・検討会を7月・10月・12月・1月に行うとともに、必要に応じて個別に検討を行った。 ・就職内定率94%→100%（1月末現在） ・1級3種目以上取得者44%→28.2%（26年度 11/39）	<b>総合評価</b> （評定） <b>A'</b> （所見） ・検討会を複数回行うとともに、進路相談も行い、生徒の進路希望達成のための協力が深まった。	大学の数を競うだけでなく、進路実現に向けて取り組んでほしい。 人材育成の面で視点を考えて進路実現させてほしい。 将来的に社会貢献できるように進路への取り組みを考えてほしい 難関大学への進学を考えた工夫を補習や授業で展開する。 商業科の生徒も進学への抵抗がないように指導する。 進路希望実現に向けた早期の意識づけが必要である。	検討会を重ね、担任と生徒との面接を重ねることで実力と志望、そして将来の進路をよりの確に把握できるように努めていきたい。 商業科の生徒も進学への抵抗がないように指導する。 進路希望実現に向けた早期の意識づけが必要である。	
		<b>活動計画</b> 《全校レベル》 ・進路指導課と教育相談・特別支援課が協力し、全教職員の共通理解のもとに、生徒の進路実現と自己実現を支援する。	<b>活動計画による実施状況</b> 《全校レベル》 ・心の弱い生徒への対応や支援を、担任や関係職員を含む全職員で協力して、粘り強く行う必要がある。				
		《下位組織レベル》 [学力向上検討委員会・進路指導課] ・部活動と学習の両立を、ホームルーム活動や学年集会等で指導する。 ・面接指導等をとおして、生徒の特性や長所などを把握する。 ・オープンキャンパス参加等で進学への意識づけを行う。 ・職業観や勤労観の育成に努めキャリア教育を推進する。 ・検定対策補習や進学補習を充実させる。 ・卒業生との進路対談会等を実施する。	《下位組織レベル》 [学力向上検討委員会・進路指導課] ・学年集会やホームルーム活動、また面接をとおして、学習と部活動の両立を意識づけさせ、努力をさせた。 ・面接等をとおして、生徒の特性や長所を把握した。 ・オープンキャンパスや大学訪問等で進学への意識づけをした。 ・土曜日に難関大補習や金曜日の基礎補習長期休業中の進学補習をできるだけ多く実施した。				各下位組織自己評価 [学力向上検討委員会・進路指導課] A ・学年集会・HR活動・面接・各行事をとおして、生徒の進路や学習に対する意識づけができています。
		[各学年会・教育相談・特別支援課] ・個人面談や三者面談を通して生徒理解に努め一人ひとりの希望に応じた進路実現を目指す。 ・生徒一人ひとりを深く理解し保護者の願いを受け止め、適切な指導及び必要な支援を行う。	[各学年会・教育相談・特別支援課] ・支援が必要な生徒に対し、家庭訪問や面談を実施したり、日々の連絡を取り合ったりして、連携を図った。 ・定期的に検討会を開いてサポート体制が築けるよう、情報共有や支援・指導についての検討を行った。				B ・本人や保護者の納得のいく支援ができた。 ・学年全体で生徒を支えることが今後の課題である。

・面談や学習生活記録のチェックをとおして,日々生徒の理解に努めた。  
 ・問題を抱えた生徒については,家庭と連絡を密にとり,保護者からの要望や生徒本人の思いを理解し,支援を行った。

平成26年度

総括評価表

徳島県立富岡東高等学校(本校 全日制)

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔8〕組織力で迅速かつ有機的に動く教職員集団の構築	①個々の教師に頼ることなく,「報告・連絡・相談」の意識を周知徹底する ②生徒の状況等について教職員が情報を共有する環境の整備 ③教職員が自主的に研修に参加し,資質の向上のために自己研鑽に励む意識の高揚 ④カウンセリングに関する専門的な知識やスキルの会得と,協働する組織の構築	<b>評価指標</b> ・コンプライアンス,情報セキュリティ等の啓発活動を充実させる。 ・不祥事を未然に防止する「風とおしのよい職場環境づくり」を推進する。	<b>評価指標による達成度</b> ・職朝など短時間を利用してコンプライアンス意識向上の積み重ねを図る。 ・「風とおしのよい職場づくり」を心がけ相談に乗りやすい環境・相談を受けやすい環境作りをしている。	<b>総合評価</b> (評定) <b>B</b> (所見) ・交通違反が発生したので,今後,交通安全・マナー等意識改革の徹底を図っていく。	教職員全員がコンプライアンス意識を保てるように研修を繰り返す。
		<b>活動計画</b> 《全校レベル》 ・教職員集団や個人の規範意識を高める。	<b>活動計画による実施状況</b> 《全校レベル》 ・コンプライアンスについて常日頃から意識向上を図るように勤めた。		
		《下位組織レベル》 [各学年・教育相談・特別支援課] ・学年主任を中心に,「報告・連絡・相談」の意識をもって,生徒の指導や支援にあたる。 ・コンプライアンスの遵守やカウンセリング,特別支援教育についての専門的な講演会に参加する。	《下位組織レベル》 [各学年・教育相談・特別支援課] ・支援が必要な生徒に対して,学年主任や担任・教科担任と情報共有を図り,生徒の指導や支援を行った。 ・生徒理解に必要な研修会や講演会に参加し,指導や支援の仕方の共通理解を図った。 ・学年全体で組織として機能することは概ねできていて,生徒の情報を共有し必要に応じて教育相談・特別支援課や管理職と連携しながら,支援に勤めた。	<b>各下位組織自己評価</b> [各学年・教育相談・特別支援課] ・必要に応じて,連絡や意見交換を行い,教職員が共通理解のもと,生徒の指導や支援を行うことができた。 ・学年全体で生徒を支えることが今後の課題である。校務多忙で,学年で話し合う機会が少ないことも一因である。	
				<b>B</b>	